

中学校 総合的な学習の時間 部会

部会長名 金田中学校 校長 白石 俊幸
実践者名 金田中学校 教諭 青柳 美香

1. 研究主題

第3学年における「キャリア教育」の視点に立った総合的な学習の研究
～肯定的自己理解と自己有用感の獲得を目指して～

2. 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現在、日本国内を見ると様々な社会問題が山積みのまま残されている。生徒たちに身近な問題としては「ひきこもり」や「ニート」などがあげられる。

これらの問題の根底には、「自分の考えをもつことができない、主体的に判断することができない」「社会の中での自分の役割や価値が見いだせない」ということがあるように感じられる。激しく変化するこれからの社会をよりよく生きていくためには、社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくこと（キャリア発達）が尊重されるようになるだろう。それには、自ら学び、考え主体的に取り組む態度の育成が必要である。平成22年3月「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」においても「『総合的な学習の時間』は自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどを目標にすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる『知識基盤社会』の時代において、『生きる力』をはぐくむために重要な役割を果たすものである」と明記されている。

(2) 生徒の実態から

生徒を取り巻く家庭環境・教育環境は必ずしも恵まれているとはいえない状況にある。その中で、保護者・地域の願いとして「進路を選択・決定する力と進路の保障」及び「町の将来を担う生徒の育成」が挙げられている。中学校としてこれらの願いに答えるには「キャリア教育」が必要不可欠である。

本年度の本校のキャリア発達上の課題は「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」と「興味・関心等に基づく勤労観・職業観の獲得」である。肯定的自己理解とは、「自分は大切な存在だ。自分しかかけがえのない存在だと思える心の状態のこと」である。また、自己有用感とは、「自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということをも自分自身で認識すること」である。これらは、生活・教育環境によって大きく左右されると考えられており、教育上の重要な要素だと考えられている。この2つが高いと、「自分に自信を高めることができる」「意欲的に人間関係を築くことができる」とされている。また、それらは「進路を選択・決定する力」や「勤労観・職業観の獲得」にもつながるものだと考え、本主題・副題を設定した。

3. 主題の意味

(1) 「キャリア教育」の視点に立つとは

本校の総合的な学習の時間の目標は、「自らの生き方を模索するために、主体的・創造的に取り組む態度と豊かな人間性の育成」である。その中で各学年の目標として共通しているのが「課題を見つけ問題を解決する」という「課題解決能力」であり、キャリア教育

で育成すべき力とされている基礎的・汎用的能力に含まれるものである。また、各学年の目標を達成するために、本校では学校行事等とともに1年生で「職業調べ」2年生「職場体験」3年生「上級学校訪問」と「キャリア教育」の視点に立った活動が計画されている。

3年生の「上級学校訪問」では、全員が高等学校で実際に授業を受ける。また、「肯定的自己理解を深め、上級学校の情報をもとに自分なりの進路希望や進路設計を吟味し実現しようとする態度の育成」を目標としている。前単元の「合唱コンクール」で得た「肯定的自己理解」を深めながら上級学校の情報を適切に取捨選択・活用していき、自らの進路や生き方にむけて主体的に考え、判断する能力の育成につなげたい。また、その能力は本校の総合的な学習の時間の目標達成に大きく近づくものだと考える。

(2) 肯定的自己理解と自己有用感の獲得とは

肯定的自己理解・自己有用感を育て、高めるためには、まず、自分の力でできたという成就感と自信をもたせることが大切である。次に、生徒の失敗体験もチャンスと捉え、結果より努力を認め、誉めて励ますこと、さらにそれを周りにも伝えることである。これをくり返して指導することにより、肯定的自己理解・自己有用感は育成され、高められていくと考えられている。難しいことばだが、この2つとも「自分はこういう人間なんだとわかること、自分のいいところも悪いところも認めること」なのではないか。それは自分の考えをしっかりともち、それをお互いに伝え合うことがもたらしてくれる力なのではないかと考える。

本校では2学期に合唱コンクールが行われる。合唱コンクールは学級はもちろん、ブロック合唱（縦割り学級での合唱）・全校合唱が行われ、3年生が中心となり1、2年生を指導する。そのため、成就感と自信をもたせることができる学校行事である。終了後から上級学校訪問の活動が行われるため、合唱コンクールで得た肯定的自己理解及び自己有用感を生徒たちの「キャリア発達」を促していきたい。

4. 研究の目標

「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」がキャリア発達を促し、しいては主体的・創造的に自己の生き方を模索する態度の育成につながることを検証する。

5. 研究仮説

(1) 合唱コンクールの取り組みから、成就感をもたせるようにする。

ブロック合唱では3年生全員が1・2年生の指導にあたる。それは、自分自身でどのように指導すればいいのか考え、様々な問題や失敗を乗り越えながら合唱を仕上げていくという成就感につなげていく活動であり、自己肯定感・自己有用感を高める活動に適していると考えられる。合唱コンクールで感じた自己肯定感や自己有用感を次に行う「キャリア教育」につなげていきたい。

(2) 上級学級訪問でワークショップ型の授業を取り入れ主体的に活動できるようにする。

ワークショップ型の授業は、「活動」を通して学ぶことで、主体的な学びの力を育てる学習方法である。上級学校訪問では全員が高校で2時間の授業（選択制）を受ける。その中にワークショップ型の授業を1時間取り入れてもらい主体的に学び、考えることができるようにする。実際に高校で授業を受けることで、上級学校の情報を適切に取捨選択・活用していき、自らの進路や生き方にむけて主体的に考え、判断する能力の育成につなげたい。

6. 研究の計画

(1) 単元 「上級学校訪問」

(2) 単元の目標及び指導計画

単元	上級学校訪問	総時数	7時間	時期	10月～11月
単元の目標	<p>○高校の先生や先輩との交流を通して、基本的なマナー等を身につける。 (人間関係形成・社会形成能力)</p> <p>○ワークショップ型の授業を通して、主体的に学び、考えることができるようにする。(自己理解・自己管理能力)</p> <p>○上級学校の情報をもとに自分なりの進路希望や進路計画を吟味し、実現しようとする態度を養う。(課題対応能力・キャリアプランニング能力)</p>				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点	
1	2	○上級学校訪問の目標を理解する。	<p>1. 上級学校訪問の内容の確認をする。</p> <p>①上級学校訪問の目的・約束事等を確認する。</p> <p>②上級学校訪問での体験授業を確認する。</p> <p>③体験授業(2時間)を選択する。</p>	<p>・上級学校訪問をなぜ行うのか各自に考えさせる。</p> <p>・高校でどのようなことを体験したいか考える。</p> <p>・各自が興味のある授業を受けられるようにする。</p>	
2	4	○上級学校訪問を通して主体的に学び、考えることができるようにする。	<p>1. 学校説明</p> <p>2. 体験授業</p> <p>3. 高校生(金田中学校出身)との談話</p> <p>4. まとめ</p>	<p>・マナーを身につけさせる。(言葉遣い・挨拶など)</p> <p>・各自が主体的に取り組めるように工夫をする。</p> <p>・必要な情報を得ることができるようにする。</p> <p>・体験しての感想だけではなく、これからどうしたいかどうしなければいけないかを考えられるようにする。</p>	
3	1	○上級学校訪問から得たものをまとめる。	1. 体験をまとめる。	<p>・自分なりの進路希望や進路計画を吟味し、実現しようとする態度を養う。</p>	

7. 指導の実際（福智高等学校において実施）

学習活動・内容		生徒の様子等
1. 高校側からの挨拶・学校説明		・生徒代表挨拶 → 生徒会副会長
2. 体験授業		
① 1班 → 半分にわかれ、A・Bの授業を交互に体験する。		
2班 → 半分にわかれ、C・Dの授業を交互に体験する。		
	体験授業（40分×2コマ）	生徒の様子
1班	<p style="text-align: center;">パソコンでカレンダーを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の先生の指示に従って、オリジナルのカレンダーを作る活動を行う。 ・補助として高校生8名が作業を手伝ってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめは、恥ずかしそうにどうしているのかわからない様子だったが、時間が進むにつれて高校生にも自分たちから質問するなど積極的に参加していた。中学校に比べ専門的なソフト等を用いて作成するため、興味深そうに行っていた。 ●進むのが早く、ついていけずにいる生徒がいた。
	<p style="text-align: center;">理科の実験教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンの色が変わる実験 ・醤油鯛がペットボトルの中にくる実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に身近な物を用いた実験だったため、とても興味深そうに行っていた。また、なぜそうなるのか高校の先生に一生懸命質問し、理解しようとしている姿が印象的だった。 ○班で行ったが、人数分準備されていたため、全員が実験に参加できた。
2班	<p style="text-align: center;">介護体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験 ・アイマスク体験 ・高校生も一緒に指導してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○車いすに乗るのは、ほとんどの生徒が初めてである。そのため、最初は興味本位であったが坂や段差などでの難しさに唸っていた。 ○実際に車いすに乗っている人に出会ったらどうしたらいいのか考えている生徒もいた。 ●生徒数分の台数はないため、順番に行っていた。そのため、活動が終わるとどうしていいのかわからない生徒が見受けられた。

D	ダンス体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップダンスの体験 	<ul style="list-style-type: none"> ○じっとしたり、踊らない生徒は一人もおらず、全員がとても楽しそうに踊っていた。専門の先生から教えてもらえることがとてもうれしそうだった。
	<ul style="list-style-type: none"> 3. 高校生（金田中学校出身）との談話 <ul style="list-style-type: none"> ・高校に進学してよかったこと。 ・これからどのように頑張ればいいのか。 4. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・福智高等学校にお礼の手紙を書き、渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験授業のあとでもあり、また、知っている先輩が具体的に話をしてくれたので必死に話を聞いている様子だった。 ・生徒代表挨拶 → 生徒会長 	

8. 研究のまとめ

合唱コンクール終了後の成就感がなくならないうちに、すぐにこの上級学校訪問を行ったことはやはり正解だったと思う。あきらめから高校受験をしないと言っていた生徒が「楽しかった。自分は福智高校に行きたい。」と言い、実際に受験をすることができた。全員の希望校ではないが、実際に高校へ行き、そこで高校の先生から授業を受けるという体験は生徒たちを前向きにしたように感じる。この頃から3年生全体が勉強に対して「やらされている・やりたくない」から「自分のためにしなければいけない」という意識に変わった。自分が将来何になりたいか考え、どうすればいいのか進路について真剣に悩む生徒たちも見受けられた。やはり、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」がキャリア発達を促し、自己の生き方を模索する態度の育成につながるのだと改めて感じた。

「上級学校訪問」は本年度初めての試みである。生徒たちが自己の生き方を考えることができるような取り組みを来年度以降も試みていきたい。

9. 成果と課題

- 上級学校訪問を通して、「進路」に対して前向きに考えることができるようになった。
- 「進路」を自分の将来と関連づけて考えることができるようになった。
- 体育会終了後から出前授業なども取り入れ、継続的に年間通じての活動にすると早い段階から「自己の生き方」について考えることができるのではないか。

◎参考文献

- ・中学校学習指導要領（平成20年） 文部科学省
- ・児童生徒の学習評価の在り方について（報告）（平成22年）
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
- ・『自己有用感 一生きる力の核』 北島貞一著 田研出版
- ・『生きることと自己肯定感』 高垣忠一郎著 新日本出版社